

# 土・人・水

## 地域用水の守り人

大町市はSDGs未来都市として、達成に向けた主な取り組みをまとめた「大町市第2期SDGs未来都市計画」を策定しました。「水が生まれる信濃おまち」サステイナブル・タウン構想の中で重要な資源と位置付ける「水」を中心とした地域ブランド振興や人口創出事業への具体的な取り組みが掲げられています。そうした中で、大町市及び大町市土地改良区、地元利水関係者の代表や関連会社で構成される当協議会は、市民の皆様と水や自然環境の大切さを広く知ってもらうべく広報活動やイベントを通じて発信してまいりましたが、なかなか定着しませんでした。今回は、大町・社・平地区の水路の維持管理、利水調整を行う大町市土地改良区について、一般の市民の方にも知っていただきたいと思えます。

ここ大町市は、古くから一級河川の高瀬川・鹿島川・籠川・仁科三湖（農具川）の河川水及び稲尾沢や居谷里沢に代表される沢水を、堰で引水し、灌漑に利用する他、人々の生活用水として利用してきました。その過程で戦後の食糧増産や発電事業を組み合わせた高瀬川総合開発が樹立され、それを契



写真：町川残水（都市下水道）、毎日、農具川の4/1程度の水と大量の家庭ごみが流れている。

機に大町市土地改良区（現在、理事13名・監事4名、総代37名、職員4名）は、昭和32年に設立されました。水が豊富なこの地域ならではのこの画期的な水利システムにより、安定した地域用水（かんがい、生活、防火等）を住民のみならずまに提供することが可能となりました。設立以来、水路改修や維持管理、客土、農道整備、圃場整備など、その時代のニーズに即した様々な事業を推進してきましたが、時代の流れとともに近年は地域用水を守ること自体に行政や利水関係者と一体となつてきれいな水を次世代に継承していく為、そして大町市において溢水災害等が起きないように、水の守り人としてこれからも務めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

長野県大町市大町3887番地  
大町市土地改良区  
水土里ネットおまち  
地域用水対策協議会  
TEL 0261(22)5542  
FAX 0261(23)0766  
www.midorinet-omachi.jp



写真：八日町ポケットパーク沿いの用水路、毎日大量のゴミが流れつく。

## ため池の景観整備

令和4年10月28日、大町市大町大原町と平二ツ屋にまたがる「大原ため池」で、ため池の再生イベントを開催いたしました。数日前から内部の水抜きを行い、当日はほぼ空になった状態で堤体の草刈りや、堤内の草刈り、支柱木の撤去を約2時間程度行い、作業終了後は、地元産のリンゴやお米、その他お酒などが当たる抽選会を行いました。また、会場では、前年度に行われた「居谷里ため池」のイベントの様子やため池の構造についてのパネル展示、大町市の職員による生態調査・水質調査を行いました。大原ため池では、あまり生き物を確認できませんでした。が、かつて養魚をしていた時代や、釣り遊びをした話、ため池の建設当時の話を知る人もいて、過去を懐かしむ声も多く聞かれました。

お米づくりを中心とした農業が盛んにおこなわれていた昔は、地域住民が中心となり、池干しが盛んに行われて、

機能保全や景観整備がなされてきました。時代が移り変わり現代社会においては、ため池の役割も薄れ、その存在は人々の心から忘れ去られようとしています。これからのため池と人が安全に共生し、朽ちることなく次世代に引き継げる様に、日々の維持管理や啓発活動に努めてまいりますので、地域住民の皆様のご協力をお願いいたします。最後に、本イベントにご協賛いただいた、地元組織・関係企業・自治体の皆様に改めて感謝申し上げます。



写真：水をぬいた大原ため池

## 水不足の懸念

地球温暖化の影響により、集中豪雨が多くなり、雨の降らない日が減つた為、雨量の変動幅が大きくなるにつれ、洪水だけでなく干ばつや渇水のリスクも高まっています。日本には、梅雨があり、世界平均の1.6倍ほどの年間降水量がある一方で、河川の多くは急勾配になっており、短時間で海に流出してしまう為、水の確保量が少ない現状があります。

また、ここ大北地域も近年はからつ梅雨と言われる年も多く、冬の降雪量も減少傾向にあり、水稲や、畑作物にたくさんのお水が必要なこれからの時期に水不足が懸念されます。

きれいな水は大町の宝などとよく表現されますが、常に豊富で十分な水があるわけではなく、気象の影響なしに水が生まれることはありません。大町市においても場所によっては枯渇しやすい沢水に頼るしかなく、安定した河川の水を利用するために、様々な水路や揚水機が築かれ人々の生活や農業を発展させてきました。かつては、河川の上下流の地区で水争いが起き、今現在も番水制により田の水かけを行っている地域もあります。これからの本格的な渇水期に向けて、一人一人が限りある水資源ということ認識しつつ、助け合いながら有効な水利用をする様をお願いします。

### 小学校の水路の学習

大町市教育委員会が行っている水路学習で大町北小の4年生が小学校のすぐ近くを流れる大町新堰のルーツを巡る途中、大町温泉郷にある西口沈砂池を訪れました。ここでは、実際に水門操作を子どもたちに見てもらい、沈砂池の構造等を学習してもらいました。市内において毎秒1tを超える水を流す水路は少なく、子供たちもその迫力に驚いているようでした。また、大町西小4年生の水路学習で

は、校内を流れる北原堰（御所堰）の水路学習に当改良区職員も案内役として参加してまいりました。学校近くの天正寺からスタートし、荒井教育長より水路にまつわるエピソードや歴史の講義をうけながら分水地点を巡り、最後は越荒沢親水公園や取水元の頭首工に赴き、「猫鼻」の由来についてお話をさせていただきました。

水路学習を通して、先人たちが懸命に造り、維持してきた水路や、そこに流れる清らかな水の大切さを学び、子供達が大人になったときに、この学習会のことを思い出し、水路の維持や後世への伝達に役立ててくれることを願っております。



写真：北小の水路学習の様子

### 西小お米作り体験

毎年当協議会が行なっている大町西小学校5年生のお米作り体験授業が今年も始まりました。4月18日に種蒔作業。

あいにく雨に見舞われ、気温も低かった為、教室前の軒下の狭いスペースで作業を行いました。どの班も手際よく、丁寧仕上げてくれました。それから約4週間、子供達が温度管理と水くれをおこない、しっかりとした苗に成長させてくれました。

5月11日に代掻き作業。最初は裸足で田に入るのを躊躇する子供も大勢いましたが、作業に慣れてくると、徐々にペースが上がりました。泥だらけになっている子供もいました。普段の生活で味わうことのない解放感を楽しみながら作業している様子が印象的でした。

5月18日に田植え作業。濃緑色に立派に育った苗をロープの印に合わせて、手作業で植えました。大人でも根気のいる作業ですが、弱音を吐かず、一生懸命に行っている姿にたのしみさを感じました。これから9月の収穫まで子供達同様にたくましく成長して、秋には立派な穂が実ってほしいものです。

当協議会の活動に対しご賛同いただき、毎年種もみをご提供頂いているライスファーム野口さん、学校近くの田んぼをお貸しいただき、作業のお手伝いをしていただいている平林さんに改めて感謝申し上げます。

### 大澤寺ため池フェンス完成

大町市の市道大町鹿島線の小熊沢別荘地の北側に「大澤寺ため池」があります。このため池は、小熊沢の湧水・表流水と、鹿島川取水越荒沢堰の冷水



写真：大澤寺ため池フェンス

の一部を合わせて貯水しています。貯水量は、約56,000m<sup>3</sup>で、管内では、居谷里第1に次ぎ、2番目に大きなため池です。昭和31年の高瀬川総合開発事業の際に今の構造に築造され、平成5年に大規模改修がなされました。近年は老朽化に拍車がかかり、立入禁止柵の倒壊などが目立ち、人身事故などが懸念されるようになりました。

防災重点ため池にも指定されているため、令和2年度には、ため池監視システムが設置され、遠隔監視が可能となったことを機に、改修計画を立て、令和4年度に土地改良施設維持管理適正化事業により強固なフェンスに改修されました。

今後ため池の美しい景観を守る為、また、安全なため池として人々に愛されていく様、維持管理に努めてまいりますので、よろしくお願いたします。

# 借馬集落の成立と 中沢堰・上堰・北荒沢堰の役割

木崎湖が「天然の温水ため池」としての機能を果たし、農具川は、農耕をはじめ下流域に多くの恩恵を与えてきました。圃場整備の際に発掘された借馬遺跡は、弥生時代から平安時代前期まで農具川沿いの微高地に人々が生活していたことを示していますが、その後、次第に居住地が段丘上に移動したと考えられています。こうした視点から現在の借馬集落が成立した経過を考えてみます。

「借馬」が文献上で確認できる初見は、天正15(1587)年の「溝口貞秀黒印状」で、借馬の内として現在は大町三日町である「胡桃原」や「大ささ(笹)」が記載されています。また、慶長19(1614)年の「借馬村検地帳」には「分ずい(水)」の名がみえ、同年、松本藩主の小笠原秀政が大沢寺へ源汲と二ツ屋を寄進するまでこれらの地域も借馬の内とされ、農具川沿いから鹿島集落に至る広大な範囲が当初の「借馬郷」であったと考えられます。

この借馬の開発に深く関係した用水が中沢堰と上堰です。江戸時代の絵図には、木崎湖下流に農具川本流と共に中沢堰、上堰の三口の水門が描かれ、水門の上には糸魚川街道の三連の橋が架かっていました。橋のたもとは、水の恵みに感謝し、旅人の安全を願って今も仁科三十三番札所の十三番「三

橋堂」が、まつられています。戦争が厳しさを増してきた昭和19年、木崎湖の水深を3m下げて昭和電工の広津発電所に送水するために中沢堰と上堰へは木崎湖から自然流下できなくなり、水門に代わって農具川からポンプで汲み上げ送水する仕組みが設けられました。

現在の集落周辺に定住し始めるころ、流域の遺跡などから見ておそらく鎌倉時代以前には、農具川から自然に流出する支流を整備して中沢堰ができていたとみられます。流域には、古代の水田跡が残る一方で、集落東側を南北一直線に流れる支流を分けており、中沢堰によって現在の借馬集落内への定住が始まったことが知られます。さらに集落が西側に拡大するに伴い、中沢堰より一段高い位置に農具川から取水して上堰が引かれました。上堰は、集落の中心地を中沢堰と約130mの間隔で南北に並行して流下しており、定住と集落の固定に大きな役割を果たしたと考えられます。

その後、集落が発展してくると飲料水や生活用水として鹿島川と大町をつなぐ町川(現在の南荒沢)から分水して北荒沢堰が引かれました。北荒沢堰や町川がいつ頃引かれたか明らかではありませんが、これらの用水を見下ろす位置に文明2(1470)年に大沢

寺が開かれていることから、室町時代中期頃までには完成していたものと考えられます。

北荒沢堰が届かない木崎との境付近の古寺院(古くは観音寺といい、その後海岳院となる。現在は旧地から約100m南東に存続)とその下流へは、約1.5km上流で寺堰を分水して、流末は上堰へ流入するようにしました。こうして北荒沢堰は、良質な飲料水を供給した後、上堰などを経由して集落内の残水を集める「払い堰」となり、流末は農具川へとつながっています。

借馬の例にみられるように農具川は、自らの枝堰や鹿島川水系の残水を集めながら分水と集水を繰り返して、社北部の集落へも横堰で導水され、流末では池田町川を取水して高瀬川へと合流していました。

(文責 荒井今朝一)



写真: 木崎三橋堂裏の中沢堰と上堰の分水。  
写真左上が中沢堰。

**第22回ふれあいイベント**  
**「土・人・水」開催のお知らせ**

令和4年8月20日(土)、平猫鼻の越荒沢親水公園で、第22回ふれあいイベント「土・人・水」が開催されました。

コロナ禍で中止していたお楽しみイベントも再開し、たくさんのご家族にご参加いただき、公園の景観整備、魚つかみ、すいか割、稚魚の放流を行った他、荒井教育長より「猫鼻の歴史」について講義していただきました。イベントを通じて自然の大切さを子どもたち感じてもらい、先人たちの苦労や暮らしをしのび、大町の宝ともいえる澄んだきれいな水資源を次世代に継承するためのよい一日となりました。イベントにご協力いただいた各団体の皆様に改めて感謝申し上げます。

尚、令和5年度も引き続き、当イベントを8月20日(日)8時より大町市平猫鼻の越荒沢親水公園で開催いたします。魚つかみを中心に、たくさんの方を準備しておりますので、ご家族そろってご参加ください。参加費は無料です。詳しくは市役所入口のチラシ、又はホームページ「水土里ネットおまち」を検索してご覧ください。たくさんのご来場をお待ちしております。



お問い合わせ  
地域用水対策協議会事務局  
(0261) 22-5542  
midori-net.omachi@ceres.ocn.ne.jp

水土里ネットおおまち地域用水対策協議会主催

# 第20回「ふるさとの田んぼと水」 子ども絵画展

今回で第20回目を迎える子供絵画展ですが、今回は、西小5年生が米作り体験の稲刈りを版画で表現、応募してくれました。どの作品も画面いっぱいにダイナミックに描かれていて、未来の礎となる子供達の力強さに感銘をうけました。受賞作品をご紹介します。

## 会長賞



「がんばって稲を刈る自分」  
おかもら ゆきなり  
岡村 幸成

## 理事長賞



「早く食べたいなあー」  
ながさわ  
長澤 蒼

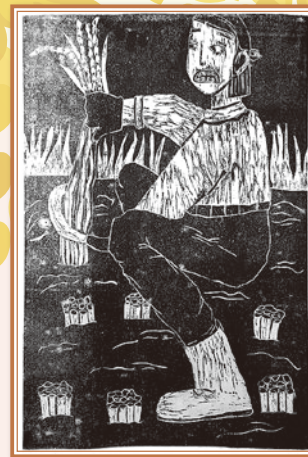
## 努力賞



「ザツザツいねかり」  
かつの  
勝野 柚琉



「笑顔で稲をかる」  
おおにし  
大西 舜威



「力強くお米をかる私」  
まるやま  
丸山 莉子



優秀作品選考の様子



展示の様子

ホームページもあります。

水土里ネットおおまち で検索

<http://www.midorinet-omachi.jp>

